

学ぶ力を育むための園に応じた指導の工夫

H15.11.28 研究発表会紀要



創立35周年

ごあいさつ

研究構想図

取り組み

Q & A

分科会から

低学年の実践

中学年の実践

高学年の実践

成果と課題
おわりに

ひとびと

西東京市立芝久保小学校

西東京市教育委員会 教育長 茂又 好文

西東京市立芝久保小学校は、平成14・15年度本市教育委員会研究指定校及び平成14・15・16年度文部科学省・東京都学力向上フロンティアスクールとして、「学ぶ力を育むための個に応じた指導の工夫」を研究主題に掲げ、算数科の指導方法を中心に研究を深められました。この2年間、校長細井邦夫先生を中心に、先生方が一致協力して研究を重ね、その知見を広く発表する機会を設けられたことに、深く敬意を表するものです。

本校は、研究主題に迫るために、少人数学習集団による指導方法や時間割の組み方等に工夫改善を重ね、成果と課題を明らかにされました。それらは、本校だけでなく、西東京市内外の教育の発展にも寄与するものと確信しております。

最後になりますが、本校の研究のために御指導をいただきました諸先生方に、この場をお借りして厚く感謝を申し上げます。今後とも、御指導をよろしくお願いいたします。

西東京市立芝久保小学校 校長 細井 邦夫

研究を進めるにあたって、大切にしてきたことが3つあります。

- 第1は、自分たちにできる研究を子どもと向き合いながら進めていこうということです。
- 第2は、取り組み状況を頻繁に報告し、理解して頂く努力をしていこうということです。
- 第3は、少しでも他の学校の参考になる研究を行っていこうということです。

本日の授業公開、研究発表、そしてこの研究紀要をご覧になって、本校の研究がめざしてきた、3つのことをご理解していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、2年間にわたり研究指定校としてご支援ご尽力を賜りました西東京市教育委員会 茂又 好文教育長先生をはじめ指導課の先生方、また、講師として研究の視点や授業改善についてご指導くださいました 東京都多摩教育事務所指導主事 富山 哲也先生、小嶋 隆夫先生に心より感謝申し上げます。

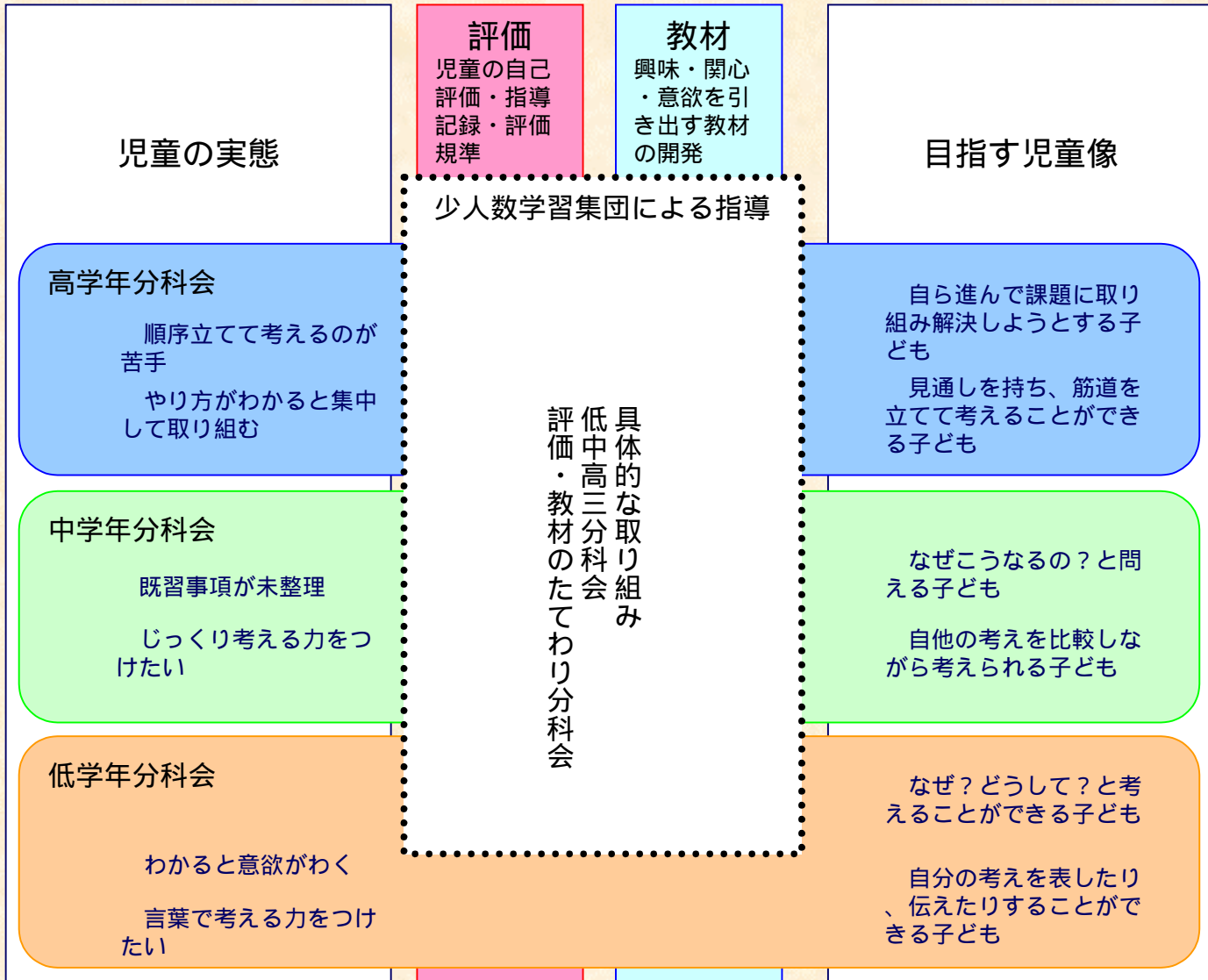
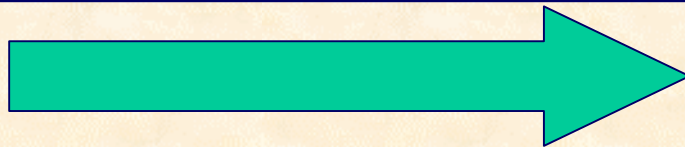
芝久保小学校教育目標

児童・学校・地域社会の実態及び、時代の変化への対応を目指し、人権尊重の精神を養い、自己をみがき、人や自然、地域と豊かにかかわり、よりよい自分や社会を創ろうとする自己形成力を持ち、生涯を通して学び続けることのできる心豊かでたくましい子どもを育てる。

ねばりづよくできる子 自分や学校生活の向上に向けて目標を立て、自主的に考え、見通しを持ちながら問題を解決し自己実現していくことのできる子。

なかよくできる子 人・社会・自然とともに生き、自他共のよさに気づき、認め、励まし、行動できる子。

研究主題 学ぶ力を育むための個に応じた指導の工夫



1. 少人数指導

…児童一人ひとりが、確実に学習したことを身につける、「わかる」「できる」と実感できる授業をめざして

2年生～6年生の算数の全時間(週4時間)を実施
個に応じた丁寧な支援、指導をめざしたコース編成

2年生	均等割を中心に
3・4年生	均等割+習熟度別(児童の自己選択、教師の働きかけ)
5・6年生	習熟度別(児童の自己選択)



算数の時間割りをそろえる、打ち合わせ時間(赤字)を設ける工夫

	月	火	水	木	金
1校時	6年	5年	6年	4年	5年
2校時	3年	4年	3年	6年	2年
3校時	4年	2年	5年	5年	5年
4校時	6年	3年	4年	2年	4年
5校時	2年	6年		3年	2年
6校時		3年			

○学生教育ボランティア

- ・クラス解体の難しい1年生で、週2時間行っている。
- ・学習の評価、個別指導などの場面で活用
- ・児童一人ひとりにできるだけ多く関われる環境づくり



2. 教材の工夫

低 「楽しい学習」「わかる学習」をめざして
具体物の活用

児童が興味を持てるプリントの作成
算数ゲームの導入



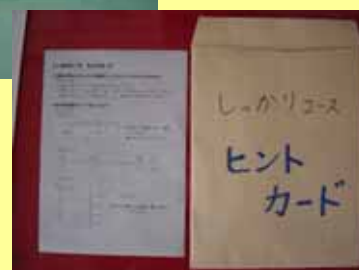
中 「わかる・できる学習」をめざして
具体物・半具体物(タイル)の活用

ノートの活用と発表の場の設定
学習のパターン化



高 児童による自己評価、学習意欲の高まりをめざして
チャレンジ問題の作成

基礎的な計算プリントの活用
カードゲームなどの活用



3. いちごタイム

- …基礎学力の定着を図り、意欲的な学習をめざして
- ・全学年 月、金(1:30~1:45) 水(1:10~1:25)の同時時間帯に行っている。
- ・火、木は8:30~8:45に朝学習を行っている。
- ・問題内容を精選している。(繰り返し学習プリント、ドリルなど)
- ・担任が学級児童の学習状況や定着度を把握し、指導支援する時間でもある。



≡育てたい児童像≡

低

- ☆なぜ? どうして? と考えることができる子ども
- ☆自分の考えを表したり、伝えたりすることができる子ども

中

- ☆なぜこうなるの? と問える子ども
- ☆自他の考えを比較しながら考えられる子ども

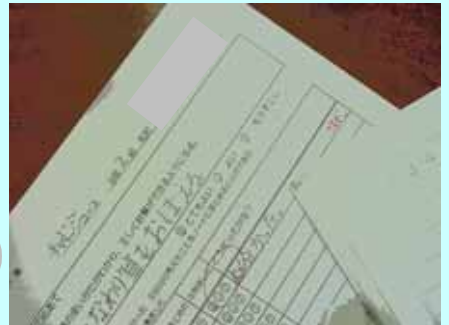
高

- ☆自ら進んで課題に取り組み、解決しようとする子ども
- ☆見通しをもち、筋道を立てて考えることができる子ども

4. 評価カード

…指導と評価の一体化をめざして、
児童の学習意欲が高まることをめざして、

- ①自己評価カード(毎時間、授業終了時に児童が記入)
- ②連絡カード(// 担当教諭が記入)
- ③学習の記録カード(単元終了時に、担当教諭が記入)



取り組みQ & A

社会的背景にはどんなことがありますか？

新学習指導要領では新しい学力として「自ら学ぶ意欲」と「思考力、判断力、表現力など社会に対応できる能力」を重視しています。そのため、ぜひ育てたいものは、たくさんの知識や技術を覚え込むだけではなく、子どもが学習に興味をもって積極的に立ち向かっていく習慣を身につけることであり、同時に社会の変化に対応できる能力としての思考力、判断力、表現力を養うことだと考えました。よってこれらを育てるための指導形態として少人数指導を取り入れることにしました。

学ぶ力をどうとらえているのですか？

学ぼうとする力（学習に対する関心・意欲・態度）

学ぶための力（理解力・表現力・思考力）
この二つの力を「学ぶ力」ととらえました。理解力、表現力、思考力といった基本的な力が育たなければ、自ら学んでいこうとする意欲は高まらないし、その逆に、学習に対する関心や意欲が育たなければ、基本的な力を定着させていくことは難しい。そこで、二つの側面を授業展開の工夫、評価から両方の力を高め、「学ぶ力」を育もうと考えました。

少人数指導のクラス編成はどのようにしていますか？

少人数指導の目的は、一人一人の児童の学習状況に応じたきめ細かな指導により、学ぶ意欲と基礎的・基本的な内容の定着を図ることです。

コース編成には2つあります。ひとつは均等割。もうひとつは習熟度別です。これらの編成の仕方は、学習内容によりそれぞれ変えています。編成の仕方を工夫することで、子ども一人一人が学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができるよう指導しています。

習熟度別編成；コースの選択も児童が選択し、家庭と教師が助言します。単元のたびに組み替えし、その都度本人の得手・不得手などを考慮しますので、ずっと固定化されるものではありません。児童の学習状況に応じて柔軟にコースを選択できます。

均等割編成；子どもの実態を考慮しながら、学年を3つのクラスに分けています。

低学年の実践

1 基本的な考え方

「学ぶ力」を小学校6年間で確実に身につけるために、低学年では、児童がそれぞれの素地を身につけることのできる指導を行っていくこととする。

素地

- ・計算力、考える力、話す力、書く力を身につける
- ・算数のおもしろさを知る
- ・算数好きになる

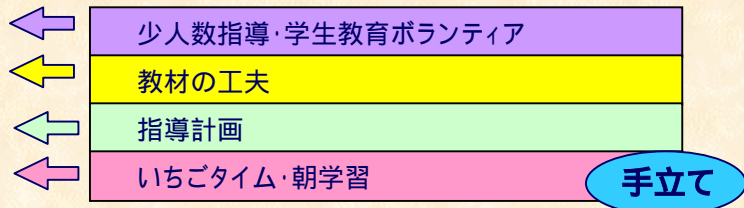
指導

- ・自分の考えを表現できる学習活動の充実
- ・興味、関心を引き出す学習課題の設定と提示
- ・学習の定着を図る学習活動の充実

☆なぜ? どうして?
と考えることができる子

☆進んで自分の考えを表したり、
伝えたりすることができる子

育てたい児童
像



2 これまでの取り組み

少人数指導

指導にあたって

様々な考え方や見方に出会えること 「わかる」「できる」を実感できること
数の認識や感覚、計算力を身につけること 以上3点に重点を置く。

編成のしかた

均等割 学級の単純分割
習熟度別 児童の学習状況に合わせた分割
均等割を基本とする。文章題・問題づくり学習は習熟度別とする。
編成時期は各学期はじめを基本とするが、状況に応じて変更可。



学生教育ボランティア

指導にあたって

一人ひとりの児童への働きかけ、関わりをより多くする。

実施方法

週2日、2時間。
学習の評価(丸付けなど)、個別指導(励まし、声かけなど)の補助的指導をお願いする。



教材の工夫

ねらい

具体的なことから、抽象的な概念を身につける過程を大切に、児童が十分に理解できるようにする。
児童が楽しく学習し、算数に関心・意欲が持てるようにする。

実践

おはじき、ブロック、積み木などの具体物を活用する。
手作りの教具を活用する。
児童の興味を引き出すプリントを作成する。
算数ゲームを通して、学習の習熟を図る。



指導計画

作成にあたっての留意点

児童が考えを表したり、伝えたりすることができる。
児童が「なぜ?」「どうして?」と考えることができる。
学習したことを活用することができる。

工夫

児童一人ひとりが計算の仕方や文章題の解決方法を考えられるようにする。
「問題づくり」の取り組みを多くする。
「1. 具体物を使った操作や動作化 2. 考える 発表する 3. 練習問題に取り組む」という授業展開にする。

実践から

〈2年生〉～単元名「かけ算(1)」

～

1 おみせやさんごっこをする

実物写真カードを使って

2 かけ算の門題作りをする

買い物したものを使って

3 発表しあい、まとめる

クイズ形式で



いちごタイム・朝学習

実施にあたって

すべての児童が、たし算・ひき算・かけ算、それぞれの計算力を確実に身につける。
担任が学級児童の学習状況や定着度を把握し、指導する。

実践から

繰り返し、計算学習を行った。(プリント学習、ドリル学習、計算ゲーム)

3 成果と課題

成果

- 「少人数」 児童の実態に合わせた授業計画を立てられた。(習熟度別)
児童一人ひとりの考えを取り上げやすかった。また、つまずきに対応しやすかった。
- 「手作り教具」 子どもの実態にあわせて作成することが可能なので、子どもの学習意欲をより高めることができた。また、長期的な、多角的な使い方ができた。
- 「具体物の操作」「動作化」「ゲーム」 体を動かす、視覚的にとらえられることにより、楽しく学習できる。理解力が高まる。
- 「問題づくり」 ノート、ワークシートなどの書き方の素地指導に効果的であった。
低学年だからこそ、様々な考え方・見方で自分の考えを素直にかくことができた。
操作活動、動作化を絵や図に表すことで、より学習が明確になり、理解につながった。

課題

自己評価のしかたまで迫れなかった。
少人数指導の場合、学級単位に比べて、実態の把握・つまずきの指導がすぐにできない。手立てを一考していくべき。

ノート指導を早く始めたい。ひらがなの学習が終わる7月以降の限られた期間の中でいかに進めるか。

まとめ

算数を生活に、生活を算数に生かしてこそ、児童は、算数のおもしろさを知り、好きになるのではないだろうか。また、どんなに教具・教材を工夫しても、問題作りに多々取り組ませても、児童が場面をイメージできれば楽しめない。よって、他の教科・教育活動・家庭に各々において、想像力を育む生活経験を積ませることも大切であると考える。

基本的な考え方

中学年分科会では、研究テーマ、「学ぶ力を育むための、個に応じた指導の工夫」の「学ぶ力」とは何かを検討した。

子供の実態に即して、基礎基本の定着をはかることを前提に「学ぶ力」を「考える力」と「表現する力」と捉えた。そして、子供にとって「分かる」「できる」ということが楽しい学習につながり、次への意欲となって、基礎基本の定着に結びつくことを確認した。

少人数指導は、「分かる」「できる」のためのものであるが、「個に応じた指導」という点では、「習熟度別編成」をやってもなお個別の指導が必要な児童が存在する。分科会では、そのことも考慮して取り組んできた。

これまでの取り組み

グループ作りの工夫

- ・楽しく無理なく学び合える場にする。
- ・単元によって、均等の少人数グループ、あるいは習熟度別グループにする。
- ・グループによって指導計画を見直したり、教材・教具を変えたりの工夫をする。

学習の流れの定着化

学習のどの場面で自分の考えを明らかにし、発表や話し合いをし、わかったことを確認するかを一時間の中に位置づけ、毎日の学習を積み重ねることが有効と考えた。

ノートの活用

課題を確認したり、考えを整理したり、まとめたり、練習したりの1時間の学習の流れがノートで確認できるようにする。

自分の考えがノートにあれば、発表にも結びつき、それが話し合いを経てどう変わったかもわかりやすいと考えた。

いちごタイムの活用

学習内容のよりしっかりした定着には、繰り返しの練習が不可欠と考えた。学習している内容にあったものを準備し、15分の中で児童自身がどこが理解できていて、どこが理解できていないのか気付けるものを工夫する。

成果と課題

学習母体を少人数集団に分けることによって、学習の流れの定着化が徹底できるようになった。ノートの取り方、発表の仕方が分かってきて、学び方が身に付いてきた。少人数集団の中では、自分に合ったペースで落ち着いて学習し、練習をすることにより理解が深められ、学習内容がより定着してきた。また「分かった」「できた」という実感を持てることから、「算数が楽しくなってきた。」と答える子が多くなった。更に「学習ふり返しカード」でその日の学習をふり返ることによって、理解できたかどうかを、児童自身が意識的に確かめられ、指導者もその日の学習の様子を把握し、次の指導に生かせるようになった。

授業の中で、思いついたことや考えを発表できる子が育ってきているが、友だちの発表を聞いて、自分の考えを発展させ、展開しあうところまではまだ到達していない。今後の方向として、基礎基本の定着をはかりつつ「表現する力」の充実を目指したい。

課題をつかむ

ノートに書く。



自分で考える

ノートに書く。
必要に応じて具体物、半
具体物を使用する。
数字・式のほか、絵や図
言葉などでもかけるよ
うにする。



発表し話し合う

ノートをもとに発表する。
誰の考えと同じか、どこが似
ているか、どこが違うか等に
気を付けて聞き合う。
どれがわかりやすく、確実に
応えに結びつくのかについて
考える。



まとめる

わかったことをノートに書
く。
使用した具体物・半具体物
を生かして、なぜその解決
法が良いのかを確かめる。



練習する

わかったことを他の問
題で生かしてみる。
うまく生かして解決でき
たかどうか確認する。



1. 基本的な考え方

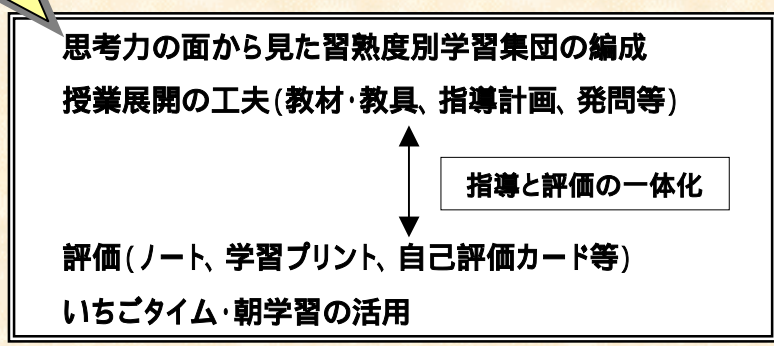
学ぶ力

目指す児童像

自ら進んで課題に取り組み、解決しようとする子ども

見通しをもち、筋道を立てて考えることができる子ども

具体的な手だて



2. これまでの取り組み

緑コース

(問題の意味を考え、解決方法の理解を目指すグループ)
基礎を確実に身につけ、算数への自信をつけて、意欲を高めていく工夫

青コース

(練習問題を繰り返すことで、応用力の向上を目指すグループ)
教師の助言のもと自分の考えを見つけたしていく工夫

赤コース

(様々な考え方をういて自力解決を目指すグループ)
一人一人の考えを大切に、それをさらに伸ばし、深めていく工夫

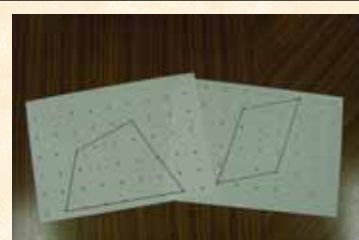
5年生の実践

単元名「いろいろな四角形」

平行、垂直の意味、作図をまず十分に復習した。そして、いろいろな四角形の定義、作図の手順を一つずつみんなで確認し、具体的操作を多く取り入れながら授業を進め、基礎がきちんと定着できるよう努めた。

進んで考えることができるように、作図プリントを工夫した。また、発表する時間を多く取り、考える楽しさを味わえるようにした。時間の終わりには練習問題で、学習内容の定着を図った。

課題解決に向けて、いく通りかの考えを出せるよう工夫した。発表ではお互いの意見を交流させ考えを深めさせた。授業の終わりに練習問題で学習内容の定着を図った。



100マス計算など基本の計算練習を授業の始めに行い、授業の終わりには、その時間に学んだことを練習プリントで定着させた。1時間の授業の中で集中して問題に取り組み、考えるもとになる基礎学力を身につけさせようと考えた。

学習内容について子どもたちが関心・意欲を高められるように身近に感じられる問題を提示したり、カードゲームを行ったりした。また、授業の終末では子どもたち自身の言葉でまとめることにより考える楽しさを味わえるよう時間の確保に努めた。

発表に十分な時間を確保し、お互いの考えを聞き合う中から、次の課題を見つけ取り組んでいけるような支援の工夫を行った。また、単元の終末において、各自が問題作りに取り組むことにより、学習したことを総合的にとらえ深めることができた。



3. 成果と課題

成果

児童が学習集団を選択するための教材の工夫を行い、児童自身が自分の思考力に合ったコースを選択することができた。

コース別による少人数学習集団による授業と平行して、いちごタイム、朝学習の時間で計算練習等を行うことで、担任が児童の実態を把握し、個別指導に役立てることができた。

自己評価カードは、児童が授業に対してどのように感じているかを把握しやすく、指導方法の改善に有効であった。

児童はほぼ同じ思考力の集団の中で自分のペースで学習を進めることができ、自信が持てるようになってきた。

課題

コースごとの指導計画は児童の実態により見直しているが、まだまだ十分な計画とは言い難い。本年度の実践をもとに指導計画をさらに充実させていきたい。

コース担当者間の打ち合わせの時間を週一時間設けているが、一人一人の児童の学習状況など、まだまだ情報交換が十分とは言えない面がある。限られた時間内で、情報交換を密にするために、個々の児童の指導記録を工夫するなど評価の方法を改善していきたい。

コース別学習では、思考力を重点的に指導してきた結果、今まで自分の力で解決することが困難であった児童も徐々に自分の考えをノートに表すことができるようになってきた。さらに、思考力を伸ばしていくために今後も継続して、指導の工夫をしていきたい。

研究の成果と今後の課題

【成 果】

教材・教具の工夫

手作り教材・教具

- ・児童の実態に合わせた教材、教具の工夫。
- ・学習意欲を高める。
- ・具体物を操作することにより理解を高めることができた。

児童が学習集団を選択するための教材の工夫。

- ・児童自身が自分の思考力に合ったコースを選択することができた。

少人数の指導

児童の実態に合わせた指導計画。

自分にあった学習のペースで学習を進めることができ、自信につながった。

学習方法のパターン化の徹底。

ノートやワークシートなどの書き方の素地指導に効果的。

一人ひとりの考えを取り上げやすい。

「自己評価カード」は児童の授業に対する感じ方などが把握でき、指導方法の改善に有効。

【今後の課題】

コース別学習では、指導計画を児童の実態によって見直しているが、まだ十分とは言い難い。

コース担当者間の打ち合わせの時間を週一回設定しているが、児童一人ひとりの学習状況など、情報交換が十分といえない。個々の児童の指導記録の工夫などが必要。

基礎基本の定着をはかりつつ「表現する力」の充実を目指したい。

おわりに 本校教頭 高野 富

私は「学校は美味しい大福のようなものだ」と考えております。餡は芝久保小学校の可愛い子ども達。周りの餅は関わる大人達です。教師・保護者・地域の方々。目には見えないけれど、心の支えになっている数限りない社会の人々。それぞれの立場で役割を果たしながら、「子ども達のために」という温かい心が解け合ったとき、餡はこの上なく美味しく香るのです。

今日、可愛いいちごを包む大福ができあがりしました。和食は器で光ると申します。この機会を与えてくださいました西東京市教育委員会を始め皆様方に心よりお礼を申し上げます。

ごあいさつ

研究構想図

取り組み

Q & A

分科会から

低学年の実践

中学年の実践

高学年の実践

成果と課題
おわりに

ひとびと



西東京市立芝久保小学校

所在地 ; 〒188 - 0014 東京都 西東京市 芝久保町 3 - 7 - 1
電 話 ; 0424(63)2869 ファクス ; 0424(69)2174
交 通 ; 西武新宿線 花小金井駅北口 徒歩15分
または 吉祥寺駅行きバス4分 北芝久保下車徒歩4分

J R 中央線・京王井の頭線 吉祥寺駅から
花小金井駅行きバス25分北芝久保下車徒歩4分

U R L ; <http://nishitokyo.ed.jp/e-shibakubo>

メール ; e-shibakubo@nishitokyo.ed.jp